A-LAB Exhibition Vol.44
白髪一雄生誕100年
記念事業 関連企画展

大上巧真｜blueprint｜2024　Photo: Kenryou Gu

櫻井 類｜センスの塊｜2024

常行三昧

Jogyo Zanmai

櫻井 類｜センスの塊｜2024

2024年7月20日(土)—9月23日(月・休)

午前10時—午後6時
火曜日休館
入場無料

高田マル｜この花、ダリア、ダリア、ダリア｜2024　Photo: Yuki Maniwa

A-LAB

A-LAB Exhibition Vol.44
白髪一雄生誕100年記念事業 関連企画展

常行三昧
Jogyo Zanmai

2024年7月20日（土）－9月23日（月・休）
開館時間｜午前10時－午後6時
休館日｜火曜日
入場料｜無料

尼崎で抽象絵画を描き続けた白髪一雄（1924—2008）の生誕100年を記念して、A-LABでは関連企画展「常行三昧 Jogyo Zanmai」を開催します。

「常行三昧」は比叡山で行われる修行の一つで、念仏をとなえながら本尊阿弥陀仏のまわりを歩き続けるというものです。天井からつり下げられたロープや柱の間の横木につかまって休むことはできますが、修行中は決して座ったり横になったりすることはできません。比叡山延暦寺で修行した白髪は、その時の様子をよく周囲に語っていたそうです。

高田マル｜向かって行く線、朝の挨拶｜2024
Photo: Yosuke Ohtake

大上巧真｜blueprint｜2023　Photo: Ryusei Okada

本展では、この「常行三昧」になぞらえ、櫻井類、高田マル、大上巧真の3名が「絵」とは何かを問いながら実験的な絵画を制作し続けます。それぞれのやり方で、行為または出来事としての絵画を探究してきたアーティストたちは、ここ尼崎でどのような「絵」を見出すのでしょうか。会期中に変化していく展示を、ぜひお楽しみください。

櫻井 類｜リアリズム｜2024

イベント

アーティスト・イン・ラボ
出展作家が会場で作品制作を行います。会期中の他の制作日はHP等でお知らせします。
7月20日（土）午後1時－午後6時

出展作家

櫻井 類　Rui Sakurai

抽象的な絵、ときどき相貌や生物などのかたちを描く。またライブペインティングやパフォーマンスも行う。今・ここ・在ること、を作品／表現として示し、そこから時間や空間が延びてゆくようなアート（おこない）を目指す。個展「まばゆいシャウト、それも在り方」（galerie16、京都、2024）「連れゆくものが叫ぶ」（GALLERY04街区、大阪、2024）「姿を放す」（ギャラリー島田、兵庫、2023）「日を浴びる裸体」（岐阜現代美術館、岐阜、2019）など。1981年生まれ。

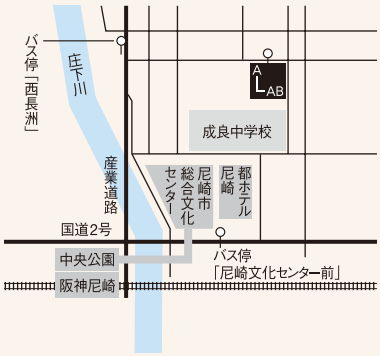
高田マル　Mal Takada

Photo: Yuki maniwa

人間はなぜ、いまだに絵を描くのか。絵をめぐる人間の原初的な衝動や欲求を探るうえで、「絵画」を物質的なひとつの形式ではなく人と人のあいだで起こる出来事として捉え、ごく個人的な描写と記述、公の場におけるそれらの伝達と誤読のなかで何が起こっているのか実践を通して考え、絵を描く行為の私的さに付き合い続けている。個展「この花、ダリア、ダリア、ダリア」（NADiff window gallery、東京、2024）「向かって行く線、朝の挨拶」（JITSUZAISEI、大阪、2023）など。1987年生まれ。

大上巧真　Takuma Oue

可変的な人体を目指すことで、世界との対峙方法を変えられるかの試みをしている。自身の物理的な身体や縄張り、そしてそれらの動きの痕跡などを手がかりに物語を始める。展覧会「東 京都 展 The Echoes of East Kyoto」（WHAT CAFE、東京、2024）「ARTISTS' FAIR KYOTO 2024」（京都国立博物館、京都、2024）「ウサギ・ハチドリ・ホムンクルス～新しい地平の作り方～」（MEDIA SHOP gallery、京都、2023）など。2000年生まれ。

A-LAB

住所
尼崎市西長洲町 2–33–1
※会場に一般用駐車場はありません
問い合わせ先
A-LAB｜TEL / FAX 06–7163–7108
尼崎市文化振興課｜TEL 06–6489–6385
ama-a-lab.com
Facebook @amalove.a.lab
Instagram @alab_amalove